

伊勢志摩構想区域における病床機能再編支援事業 の活用希望について

「病床機能再編支援事業補助金」の対象医療機関

病床機能再編支援事業（単独支援給付金）について

- 病床機能再編支援事業（単独支援給付金）については、支給にあたって、地域医療構想の実現に向けて必要な病床機能の再編であるかどうかを地域医療構想調整会議で協議することが求められています。
- 令和3年度病床機能再編支援事業の支給対象について募集を行ったところ、伊勢志摩構想区域において、支給を希望する医療機関があったため、当該医療機関による病床機能再編に係る取組の内容が地域医療構想の実現に必要なものかどうか、地域医療構想との整合性について協議します。

病床機能再編の内容

医療機関名	伊勢赤十字病院
所在地	伊勢市船江1丁目471番2
再編完了時期	令和8年3月31日（予定） うち、17床は令和3年8月27日に減少済

病床機能再編による医療機能別病床数の変更内容

再編前（平成30年度病床機能報告）		再編後		減少病床数	
高度急性期	242床	高度急性期	305床	高度急性期	63床
急性期	389床	急性期	262床	急性期	127床
回復期	20床	回復期	20床	合計	64床

病床機能再編の理由

三重県の地域医療構想において、伊勢志摩構想区域の医療需要は減少することが見込まれており、高度急性期、急性期の病床は必要病床数に対して過剰となっている。三重県の医療計画において伊勢赤十字病院は全県的な見地から高度急性期、急性期機能を担うことが期待されるとされており、県南で唯一の救命救急センターや、地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定にも示唆される高度急性期医療を医療圏を超えて提供している。高度急性期機能の更なる強化を図りつつ、余剰となる急性期病床に関しては地域医療構想の実現に資するべく減床することを計画している。このうち17床は既に令和3年8月27日に削減しているが、単なる減床に留まらず三重県医療計画においても課題とされている精神科身体合併症に対応できる精神病棟への機能転換を伴ったものである。

伊勢赤十字病院は新型コロナウイルス感染症患者等を入院させるため病床を確保している。現在、この確保病床以外の病床で一般の医療機能を維持しており、その稼働率は90%前後で推移している。新型コロナウイルス感染が終息し確保病床を通常運用に戻した際には、残りの47床を削減しても現在の医療機能の維持は十分可能であると考えられる。また、今後計画する病床削減に伴う大規模な改修は行わず、万が一、感染の再拡大やその他予期せぬ災害が発生した場合などにおいては、臨時的に病床として利用できるよう機能を維持した状態とすることを検討しており、災害時を含め地域における医療機能は十分発揮できるものと考えられる。

地域医療構想との整合性について

伊勢志摩構想区域においては、将来の必要病床数と比較して急性期病床、病床総数ともに過剰であり、全体的なスケールダウンが必要な状況となっていることをふまえると、県としては、今回の病床削減は、伊勢志摩区域地域医療構想との整合性が確保できるものであり、給付金の支給対象となると考えます。